

患者さんへ

両側扁桃周囲膿瘍の臨床的検討

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。

このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。

なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2015年1月～2023年5月に当院で扁桃周囲膿瘍の診断・治療を受けられた方
2 研究目的・方法	<p>口蓋扁桃とは、咽頭の奥の両側に一つずつ存在するリンパ組織です。扁桃周囲膿瘍とは、その口蓋扁桃の周囲に細菌などにより急性炎症を起こし、膿が溜まる(膿瘍)病気です。通常、片側の口蓋扁桃の周囲に膿瘍が形成され(「一側性症例」、比較的罹患数が多いですが、両側の口蓋扁桃の周囲に膿瘍ができる「両側性症例」は稀であると言われています。「両側性症例」は膿瘍形成の診断が難しいとされているものの、稀であるため、臨床的な特徴などを詳細に報告している研究が少ないのが現状です。</p> <p>そこで、本研究では、これまでのカルテ情報を集積し、「一側性症例」と「両側性症例」の臨床的所見を比較します。これにより、「両側性症例」がどんな方がなりやすいのか、また症状の違いなどについて検討します。</p> <p>研究の期間:施設院長許可(2023年11月予定)後～2025年3月</p>
3 情報の利用拒否	<p>情報が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんのご家族等で患者さんの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。</p>
4 研究に用いる情報の種類	<ul style="list-style-type: none">・研究対象者背景(年齢、性別、体重、喫煙歴 等)・病歴情報(原疾患、合併症、既往症 等)、前治療の有無・初診、入院時の症状、現症(呼吸苦や気道狭窄の有無、入院期間等)・画像検査結果、血液検査値、治療内容、その後の転帰 等
5 お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 札幌東徳洲会病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 駒林 優樹</p>

住所:札幌市東区北 33 条東 14 丁目 3 番 1 号

電話番号:011-722-1110(代表)

研究責任者:

札幌東徳洲会病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 國部 勇

2023 年 11 月 10 日作成(第 1 版)